

目指す学校像		21世紀を担う若者としての勤労観・職業観を培うために、高い次元の「文武両道」を教育目標に掲げ、進路指導の充実と部活動の奨励に努め、思いやりのある豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 グローバル化が進む中、異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を養う等、本校が創立以来推進している国際教育の振興に努める。										
昨年度の成果と課題			本年度の重点目標		具 体 的 目 標			達成状況				
進路指導の充実・部活動の活性化・国際教育活動の推進については、昨年度同様の成果を上げた。進学では、国公立大103名、私立大510名が合格した。部活動では、弓道・陸上・ボクシング・水泳（個人）が全国大会、陸上・卓球・弓道男女団体・水泳(個人)が関東大会への出場を果たした。また、吹奏楽が東関東コンクールに出場した。第27回目の「オーストラリア短期留学」を交流高校で実施できた。家庭学習と部活動の両立に悩んでいる生徒が多いことが課題である。効率的な学習・部活動が求められている。			進路指導の充実		① 自立した人材育成に向け、生徒一人一人へのきめ細かな学習指導と進路指導の推進 ・主体的・対話的で深い学びの実現に努力するとともに、授業時間の確保に努める。 ・高大接続改革に対応した新しい進路指導を目指し、教員の研修を支援する。 ・各種進路行事、課外、模試のあり方の再検討を随時行い、生徒の進路目標達成に努める。			B				
			部活動の活性化		② 第1希望の進路達成と部活動の上位大会出場を目指す「高い次元の文武両道」の実現 ・部活動での人格育成を推進し、全人的な人間性の向上を図る。 ・部活動加入者の増加を図り、文武両道の精神を生徒一人一人に浸透させる。 ・部活動集会を実施するなど学校全体の一体感を深め、上位大会入賞を目指す体制づくりに努める。			B				
			国際教育活動の推進		③ 国際理解教育、国際交流活動を通し、国際化に対応できる人材育成と教育の推進 ・オーストラリア短期留学やブリティッシュヒルズ英語研修の事前・事後研修等の充実を図る。 ・英語科と協働し、ALTの活用、英検準2級全員合格プロジェクトやGTEC全員受験により、国際社会、実社会で通用する英語力を身に付けさせる。 ・留学生や海外使節団との交流を通して、国際化に対応できる人材を育成する。			B				
			働き方改革の推進		④ より一層の教育活動の充実のため、業務改善に取り組み、勤務時間の適正化を推進 ・スクラップアンドビルドによる業務改善等に取り組み、勤務時間の適正化に努める。 ・ICT活用等を推進し事務作業の効率化を図る。 ・勤務時間のあり方に関する意識改革を図るとともに、関係者の理解を得られるよう努める。			B				
評価項目		具 体 的 目 標		具 体 的 方 策			評 価		次年度(学期)への主な課題			
教科	国語	基礎学力の向上を図る。		・国語に対する興味・関心を喚起する。			a	B	・読書指導の充実 ・読解力と表現力の育成 ・基礎学力の向上			
				・生徒が自主的に学習する環境を整え、その態度を育て学力の向上を図る。			b					
				・読書習慣を定着させる。			c					
	社会	学力の向上を図る。		・わかりやすい授業を心がけ、年間の進度に留意しながら日々の授業を展開する。			b	B	・さらなる学力向上及び指導方法の研究			
				・学習の定着化を図るため、平日や長期休業課外を実施し、大学入試に対応できる学力の向上に更に努める。			a					
				・社会に対する興味・関心を喚起し、生徒の政治的教養を育む。			b					
	数学	学力の向上を図る。		・平日や長期休業中に課外を実施し、基礎力・発展的学力の向上に努める。			a	A	・本校に合致した指導法の研究や共通テストの分析 ・自粛期間による進度の是正やオンライン指導法の検討			
				・定期考査やその他のテストを利用して学習の理解度を把握し、個々の生徒の実情に応じた指導を行う。			a					
				自主学習習慣の定着に努める。		・問題集や週末課題等を定期的に点検し、わからないことは随時質問できるような雰囲気作りに努める。					b	
	理学	数学の本質を理解する授業への改善に務める。		・教科担当者同士で授業技術等の情報交換を綿密に行い、指導力の向上に努める。			a	B	・教員の研修による授業の深化を目指す。 ・共通テストの分析と指導法の研究			
				基礎・基本の定着化を図る。		・教科書レベルの知識を確実に理解・定着させ、学習内容の深化を図る。					a	
				放課後や長期休業中の課外を計画的に行い、学力向上に努める。		・目的を持った観察・実験を増やし、科学的思考の能力を養う。現象に対して定性的、定量的に分析させる。					b	

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次年度(学期)への主な課題
教 科	英 語	外国語によるコミュニケーション能力を向上させる。	・これまでに学習したことを活かし、主体的・対話的学びにつながる、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を充実させ、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。	b	B ・個に応じた適切な指導を行うための観点別評価の工夫改善。 ・タブレットなどICT機器を活用した効率的効果的指導の実践 ・本校卒業時には英検2級保持者を50%以上 今年度の結果は約45% (314名中142人英検2級に合格)
			・ALTとのチーム・ティーチングやコミュニケーション活動といった学びを通して、外国語の背景にある文化に対する理解他者への配慮といった生徒の「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を豊かにする授業を行う。	b	
		3年間の段階的指導による進路実現を支援する。	・生徒の実態に沿った副教材を用いて、語彙や文法、表現といった言語の基本的な働きに対する理解を深める。	a	
			・授業での学習を通し、生徒に自分にとって必要な力が何かを考えさせ、それを補うことのできる課外指導を実施する。	b	
			・普段の授業に加えて、ALTとのチーム・ティーチングや、個に応じた指導を通して、高校卒業時、50%の生徒にCEFR B1レベル（英検2級合格レベル）の英語力を身につけさせる。（昨年度卒業生は約46%）	c	
	保 体	生徒一人ひとりの健康の保持増進及び体力の向上を図る。	・年間通して県民体操を実施する。また、体育理論や体力づくり運動、さらに、水泳や持久走を実施する。	b	B ・主体的に健康の保持増進を実践する知識技能を育成 ・実生活に生かす運動計画を作成する能力の育成 ・ICTを活用した授業展開の工夫 ・観点別評価の改善と工夫
		運動・スポーツ活動の計画的実践方法を習得させる。	・新体力テストの結果を、評価の参考データとする。	b	
		運動・スポーツ活動の計画的実践方法を習得させる。	・選択授業により、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していくための基礎とする。	a	
		運動・スポーツに親しむ態度を育成する。	・授業・体育的行事を通して、協調性やマナーや態度を育成する。	a	
		保健教育を充実させる。	・武道を通して挨拶や礼儀等、伝統的な考え方を理解させる。	b	
		保健教育を充実させる。	・視聴覚教材を利用した健康・安全教育を図る。	a	
	芸 術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	・幅広い活動を通して、基礎基本を身に付け、表現に必要な知識や技能を身に付ける。	a	B ・指導内容の精選 ・目標への到達並びに具体的方策の実現
		生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	・感性や諸能力を伸ばし、芸術への感心を深め、豊かな情操を養い、芸術のとらえ方や考え方を深化させる。	b	
		生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	・鑑賞活動を通し、多くの作品に触れ感性を磨き、想像力や創造力を豊かにして、自己表現能力を高める。	b	
	家 庭	生徒の自立を目指す。	・実践的な体験学習の機会を多くもち、基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。	a	B ・課題解決能力の育成のための研究
		課題解決能力の育成に努める。	・時事問題を取り上げ、自分の考えをもち、表現する機会を設ける。	b	
		技術検定挑戦者を増やす。	・家政系進路希望者への高い技術力の向上を図る。	b	
	情 報	主体的に情報を収集し、適切に選択、加工し、外部に表現できるようにする。	・タイピング実習、文書作成実習、表計算実習等を通して、現代社会の中で必要な基本的な知識・技術の定着に努める。	a	A ・プログラミング教育導入のための調査・研究 ・SNS等の利用上のモラルや倫理観を養う教育の充実
		情報モラルの必要性や情報発信に伴う責任を理解できるようにする。	・インターネット検索実習等を通して、情報リテラシーを養う。	a	
		情報モラルの必要性や情報発信に伴う責任を理解できるようにする。	・情報モラル教育の内容見直しを通して、著作権や個人情報の保護の重要性を認識させ、また、自らの著作物に他人の著作物を引用させることで著作権のあり方を考えさせ、情報社会を生きるために必要な倫理観を養う。	b	

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次年度(学期)への主な課題				
教 務	授業時数の確保に努める。	・ カセット方式の着実な運用を進め、出張、学校行事等に伴う時間割変更を削減し、授業時間確保に努める。	a	A	・ カセット型授業展開を実施、授業時数の確保 ・ 新教育課程の実施準備			
	新教育課程の研究を進める。	・ 新学習指導要領の実施を踏まえ、指導計画、指導方法や評価方法等についての研究を進める。	a					
		・ より教育効果の高い教育課程を目指し、常に工夫・改善に努める。	a					
	本校の広報活動を充実させる。	・ パンフレット（学校案内）、ポスターの更なる充実を図る。	b					
特別活動	HR活動を通しての自己研鑽を図る。	・ 各学年と連携しながら、キャリアパスポートを活用しLHRの更なる充実を図る。 ・ 「道徳・道徳プラス」の授業や日常のHR活動を通して、高校生の「心の教育」を図る。	b a	B	・ 各学年と連携しHR活動充実化 ・ 学校行事を通して、生徒主体性を育成 ・ 部活動顧問で連携し課題の共有と改善 ・ 施設設備の清掃と管理徹底			
	生徒会活動や行事の活性化に努める。	・ 校内祭・クラスマッチ等の行事を通して生徒会・委員会活動を活性化させる。 ・ 生徒の自主的な活動のもと、学校行事の充実化を図り、活力ある学校・クラス作りを目指す。	b a					
	部活動を奨励する。	・ 更に加入率を上げるとともに、文武両道を堅持しつつ、有意義な高校生活を送れるように支援する。 ・ 定期的な部顧問会議を開き、諸問題について検討する。 ・ 水桜会館・部室・トレーニングルーム等の管理と整理に努める。	a b b					
	生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上に努める。	・ 端正な服装・頭髪の指導に努める。 ・ 挨拶や正しい言葉遣いの励行、明るい校風作りに努める。 ・ 携帯マナーの向上に努める。			a a a	A	・ あいさつ運動の充実 ・ 各部と協力しマナーアップ活動の充実 ・ 交通マナーアップ充実 ・ 各講演会の充実 ・ 自転車保険加入の推奨 ・ いじめ未然防止活動の充実
		安全教育について、諸関係機関や地域社会との連携に努める。	・ 交通事故防止と交通マナーの向上に努める。 ・ 自主的に安全行動を取ることができるように努める。 ・ 保険加入、自転車点検等、自己管理ができるように努める。			b b a		
		いじめの未然防止及び関係機関との連携に努める。	・ 生徒の自己指導能力の向上及び情報モラル教育の推進に努める。 ・ 保護者との連携を密にするとともに、いじめの早期発見に努める。 ・ いじめの未然防止に積極的に取り組むとともに、関係諸機関との連携に努める。			b a a		
		進路指導	各種進路情報を提供する。			・ 大学入学共通テストや各大学の入試制度などについて、学年・生徒へ時機をみて情報を提供する。また、オープンキャンパスや各学校の体験事業・高大連携事業等への積極的な参加を促すための情報提供を行う。 ・ 赤本や過去問の提供とともに、「進路資料」など資料の充実を図る。 ・ 「進路生活実態調査」を生徒理解と指導に役立てられるよう提供する。		
各学年・他分掌との連携の強化を図る。			・ 進路行事や指導の内容について、進路指導部が主体となって、学校標準を策定する。 ・ 講演会など各行事について、各学年と調整して効果的な指導を行う。また、必要に応じて学年集会等での指導や進路相談を行う。 ・ 教員への教材や研修資料の提供を行う。 ・ 推薦の指導においては、個別の大学に適応したきめ細かな指導支援を行う。 ・ 模試の効果的活用を図る。学年・教科で結果を分析し、対策を共有する。	b b a a b				
各種行事・各種規定について検討する。			・ 類型科目選択でのコース分けでは、文理変更が生じないような指導の充実を図る。 ・ 総合型選抜・学校推薦型選抜制度について、より効果的な指導法・指導体制を検討する。 ・ 春季講習、模試の内容、実施のあり方について検討する。 ・ 進路行事を精選し、その効果的な運用を図る。	b b b b				
国際教育			国際理解教育、異文化理解教育を推進する。	・ 「異文化理解セミナー」を、異文化理解のための実りある機会とする。 ・ ブリティッシュ・ヒルズ英語研修を通して、異文化への理解を深め、実践的な英語力を向上させ、グローバル化社会に対応できる資質を養成する。 ・ 校外で行なわれる国際理解教育関連行事やコンテストへの参加を奨励する。	d	C		
	英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。		・ ALTを最大限に活用し、インタラクティブフォーラム等の大会出場者の指導や、全クラスで行うチーム・ティーチングの授業を通して、英語で積極的に表現する態度とコミュニケーション能力を養成する。 ・ 英語科と協働し、英検準2級全員合格プロジェクトにより、国際社会、実社会で通用する英語力を身に付けさせる。	b				

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次年度(学期)への主な課題
保健厚生	校舎内外の美化と清掃の徹底に努める。	・公共物を大切にすることの育成及び校舎内外を汚さないマナーの向上に努める。	b	B ・新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底 ・コロナ禍の状況下における保健関係の学校行事の円滑な実施
		・校舎内外の美化と自主的な清掃作業の習慣化に努める。	b	
		・5月と10月に安全点検を実施するとともに、年間を通して不良箇所の速やかな改良・改善に努める。	b	
	生徒の心身の健康管理に努める。	・各種検診を実施し、疾病のある生徒については早期の治療や検診を勧める。	b	
		・心身の健康の保持増進を目的に、生徒の健康実態を速やかに把握し、担任・担当する教員等と協力して、その問題点を解決するため、学年・校内各部署及び保護者と連携し、健康相談やカウンセリング等の実施や健康教育等を実施することで、生徒の学校生活を円滑に進める。 ・生徒一人一人に対し、新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種感染症の予防・啓発に努める。	b	
	職員の健康管理に努める。	・「衛生委員会」を充実・機能させ、「要精密」「要観察」の職員が健康管理医や主治医に相談したり早期治療に専念できる環境づくりを進める。	b	
		・「定期健康診断」「人間ドック」を勧める。学校医による「健康講話」を実施する。	b	
図 書	図書館の利用状況の改善を図る。	・教科・学年・他分掌との連携により、図書館の利用を促し、読書活動を啓発して貸出数を増やす。	a	B ・貸出数、入館者数、授業利用数、相互貸借数のさらなる向上 ・コロナ禍における図書、視聴覚委員の活動方法について検討 ・放送機器の更新
		・広報活動や行事・研修等を通じて、図書委員会の活性化を図る。	b	
		・各種コンクールへ積極的に参加し、生徒の読書意欲を高める。	a	
		・図書館及びスタディルームの使用マナーに留意させる。	a	
	視聴覚機器の充実と円滑な利用に努める。	・校内放送機器・体育館放送機器の更新に努める。	b	
		・視聴覚委員会の活動の強化とスタッフの養成を図る。	b	
		・学校行事での放送の円滑な運営を図る。	b	
渉 外	学年保護者会・学級懇談会の充実を図る。役員の選出のための情報収集に努める。	・1年は合格者説明会で回収する役員経験・協力調査、2・3年は年度末に学年・専門委員の継続依頼調査を実施して、慎重かつ適切な人材の委員会への参加を図る。	a	B ・コロナ禍における総会等の円滑な行事運営方法の検討
		・役員経験の情報を中学校にも提供依頼するとともに本部役員の公募を実施する。	a	
		・学級懇談会の充実を図る。	a	
	委員会活動の活性化を図る。	・学年・生徒指導委員会は生徒指導部と連携し、その内容の充実に努め活性化を図る。	b	
		・視察研修は平日に開催し大学見学内容の充実を図る。	b	
		・広報委員会は、質が高く、高校の様子が保護者に伝わる広報誌を作成することに努める。	a	
	父母と教師の会・後援会・同窓会の健全な活動の推進を図る。	・それぞれの意見や要望を十分に汲み取りつつも、学校は主体性をもって対処する。	b	
		・保護者の本校の教育活動への理解を促進する。	b	
情 報	本校ネットワークの安全かつ適正な管理運営に努める。	・情報セキュリティ実施手順をふまえ、ネットワーク上の全校共有フォルダの文書等の安全性の向上を図る。	a	B ・新入生のタブレット端末の円滑な導入 ・PC委員会の役割再検 ・放送集会等の教室配信方法を検討
		・必要に応じてウィンドウズのアップデートやセキュリティ対策プログラムを適用しシステムの安全管理に努める。	a	
		・情報漏洩及び不正アクセスを防止するとともにネットワーク機器の保守を定期的実施する。	a	
		・PCスタッフ委員会で、各教室のパソコンの点検及びウイルスチェック等の定期点検を実施する。	b	
	本校ホームページの適正な管理運営及び充実に努める。	・個人情報や著作権に十分配慮し、本校の情報を公開し、教育・部活動に関する情報を広く地域に発信する。	b	
		各種機器、ソフトウェアの保守・更新を行い有効利用を促進する。	a	
		・各種文書、データの安全かつ適正な利用がなされるよう、各部、各学年と連携し、それらの有効利用を図られるように努める。	b	
	緊急情報メール配信システムの適正な運営に努める。	・各種ソフトウェア等について、各部・各学年との連携を図り、必要に応じて説明会や講習会を企画する。	a	
		・遅滞なく正確な配信に努める。	a	

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次年度(学期)への主な課題
1 学 年	生活習慣の確立と高校生らしいマナーの向上に努める。	・挨拶を励行し、言葉遣いなどの礼儀正しさを身につけさせる。	a	B ・3教科（国数英）の基礎力の定着 ・特色選抜入学者で学習に困難を抱える者への支援方法の検討 ・スマートフォンの使い方について、適切な使用方法の徹底 ・進路に関する情報収集と理解の共有 ・部活動へのより積極的な参加 ・学年業務分担方法の検討
		・時間を守る、服装頭髪等の身だしなみを整える意識を高める。	a	
		・清掃指導を徹底し、自ら進んで場を清めようとする態度を養う。	b	
		・スマートフォン類の使い方について、生徒自身がその特性をよく理解して、場面に応じて正しく使いこなせるような自制心を育成する。	c	
	授業を大切にし、基礎学力の充実や家庭学習の習慣化、適切な文理選択を目指して指導にあたる。	・授業に対する姿勢を大切にし、課題の未提出・忘れ物に対しては指導を講じる。	b	
		・授業見学日を学年で設定し、受け身一方ではなく、生徒が主体的に取り組める時間を確保できるよう授業改善に努める。	b	
		・小テストや補習などを通して、英数国を中心にの基礎学力の定着を図る。	a	
		・英検やGTECなど、外部検定に挑戦することを推進し、そのための環境を整える。	a	
	文武両道を実践し、学校行事や校外での活動への積極的な参加を推進する。	・自分に合った文理選択を進路テーマとして、個々の進路に応じた面談等の指導を行う。	b	
		・部活動への参加を積極的に奨励するとともに、継続すること、決めた事をやり切ることの重要性を理解させる。	b	
		・部活動加入者に対して学業と両立していけるように学習環境を整える。	b	
		・学校行事や奉仕作業などを通して、周りと協力し、自主的に工夫して取り組む態度を育てる。	b	
2 学 年	生徒理解に努め、学年団の情報共有を密にし、個人でなく組織として生徒の指導に当たれるような体制を維持する。	・課題超過の状態を解消するため、学年内で情報の共有を密にし、課題の調整を実施する。	b	B ・生活指導面において、挨拶や礼儀面、スマホ利用方法など指導を徹底改善 ・進路指導において、徐々に受験モードになりつつある生徒が増加する中、進路意識の生徒間格差への対応策を検討 ・部活動・行事において、頼れる存在となるよう、各部、委員会で、課題解決力、主体性や協働性の育成を推進
		・情報交換を密にとるとともに、保護者への連絡も交えながら、事態に対して組織として対処できるような学年団の形成に努める。	a	
		・誰でも意見を述べやすく、不安や課題を共有しやすい環境作りを学年として目指す。	b	
	基本的生活習慣の確立、道徳心や他者を尊重する態度を育てる。	・挨拶を励行し、場面に応じた言葉遣いや対応ができるよう礼儀正しい態度を育てる。	b	
		・高校生らしい服装や頭髪を心掛け、時間や期限を守る意識を育てる。	a	
		・スマートフォンの使い方については、生徒自身が適切な使い方を判断できるよう学年全体で指導する。	b	
	学習意欲、勉強の質の向上を目指すとともに、進路実現に向けて自ら律し自らを伸ばそうとする態度を育てる。	・面談等による生徒との対話や家庭との連絡を密にとり、養護教諭、学校カウンセラーとも連携して、生徒理解に努め、欠席率の低下を目指す。	a	
		・清掃指導を通して、進んで場を清める姿勢を育てる。	a	
		・交通ルールへの遵守やマナーについて繰り返し注意を促すことで登下校中の事故の予防を図る。	c	
	学校行事や部活動を通して、精神を鍛錬し、人間力の向上を図る。	・自らの意思で主体的に学習に取り組む姿勢を育て、やらされる勉強からの脱却を図る。	a	
		・学問や学部・学科研究の機会を設け、将来の職業や卒業後の進路実現への意識の高揚を図る。	b	
		・成績上位者に入試問題等の課題を与えることで受験勉強への意欲の向上を図り、受験に挑む雰囲気づくりの牽引役となるを学習面のリーダーを育成する。	a	
		・担任間の連携を密にし、志望校の選択肢や生徒の希望に適した進路情報など受験指導経験の共有を図る。	a	
		・探究活動において、昨年度からのレベルアップを図り、研究方法や論理の向上を目指す。	c	
		・中堅学年として各部や委員会の中心となって活動し、集団を率いるリーダーシップの育成を図る。	c	
		・部活動や学業成績などの情報交換を学年、部顧問との間で密に取り合い、多面的な生徒理解に努める。	b	
		・学校行事やボランティア活動への参加を促し、より良い人間関係を築くための社会性を養う。	c	

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次年度(学期)への主な課題
3 学 年	生徒理解に努め、生徒それぞれの悩みや不安、希望進路についてもよく理解するとともに、堅固な信頼関係を構築する。	・挨拶を励行し、社会に求められる礼儀正しい生徒の育成に努める。また、ルールやマナーなど社会の一員として求められる人材を育成する。。	b	・今年度はコロナ禍により行事が少なく、部活動をやりきることもできない状況だったが、その分進路実現に向けて気持ちを向かわせ、努力させることができた。 ・文Ⅰ・文Ⅱのコース選択は、より一層に慎重に選択するよう指導が必要 ・コロナ禍の影響、共通テストの導入、英語成績提供システムの見直しなど、対応すべきことが相次いだ。が、次年度以降も一層の学年教員間の連携が必要 ・調査書様式、記載内容や表記等について、早い段階で進路指導部と学年で共有するが課題
		・時間・期限などをきちんと守る習慣を身につけることができるように指導を行う。また自己管理できる能力を養う。	b	
		・個人面談を数多く行い、生徒一人ひとりの悩みや問題、希望進路についてよく理解する。それら生徒の悩みや問題は学年で共有し、学年全体で解決に取り組む。	a	
	生徒が描く自身の将来に近づくことができるように支援する。 受験勉強をととして、『やりきる・やり抜く力』を育て生きる力の伸長を図る。	・学習の基本が日々の授業の積み重ねであることをさらに強く認識させるとともに、質の高い授業実践に努め、真摯に取り組む態度と精神の育成に取り組む。	a	
		・生徒それぞれの進路希望や家庭環境などをきちんと把握して適切な指導を行う。学年間でも連携をさらに密にして情報の共有をする。	a	
		・受験制度や受験情報を適切に活用できるようにして、生徒にとって最善の受験を提案できるようにする。また、「最後までやりきる」ことができるように、困難から逃げずに立ち向かう姿勢を身につけさせる。	a	
	文武両道の完成をめざすとともに、本校の伝統の一員であることを自覚させる。また、学校行事へは全力で取り組む心と態度を育成する。	・部活動では上級学年として中心となって積極的に参加・活動する意識を待たせるとともに他者を思いやる態度・心が育成できるように指導する。	b	
		・部活動や学校行事・奉仕活動などの参加について、学業との両立が図れるよう目配りをして、個に応じた指導を行い支援する。	b	
		・学校行事全体をととして、自主的・実践的な態度を育て、仲間とともに成長できるより良い集団が形成できるように行事等に熱中できる環境を整える。充実した最終学年が送れるように支援する。	b	

判定規準 A(a)：大変よくできた B(b)：よくできた C(c)：ふつう D(d)：やや不十分 E(e)：不十分